地域の信頼にこたえ、事業を継続する

青いそら

市民の手作り作品の展示会を開催

様々なアイディアで日常の食事サービスを継続

青いそらは、三郷市文化会館内のコミュニティレストラン、配食、介護保険外の生活サポートを事業としています。

新型コロナウイルスの感染拡大により3月14日から市の全公共施設は臨時休館になり、当店のレストランも休業を強いられました。

一方高齢者や障がいがある人の配食は続けていましたが、ある日三郷市より『公共施設は臨時休館の為、配食の中止』の要請がありました。地域の一人暮らしの高齢者の方々の配食であり、中断することはご利用者の死活問題となると説明し、継続する事が出来ました。

イベント中止により仕事は激減しました。そこで、学校の休校で自宅にいる子供たち向けのテイクアウトのカレーやピラフを販売しました。売り上げより、仕事を作り出し、メンバーのモチベーションを落とさないことを目指し安価で提供しました。感染予防を行い、店舗の入り口付近を売り場としました。

6月にはレストランを再開し、感染対策（換気・定員椅子半減・アルコール消毒・マスク等の徹底）を実施し、セルフサービスとしました。価格も大きく見直し安価で気軽に食事が楽しめ、テイクアウトもできるお店としました。

しかし、人と人の交流を目的とするコミュニティレストランの機能は発揮できない状況です。そこで地域の人々の手作りの作品を店内に展示する展示会を開催しました。次々と展示希望があり、店内の壁面は市民ギャラリーとなりました。

配食について、継続を心配してくださる地域の方々もあり、日常食としての配食は、継続が使命であることをあらためて実感しました。

NPO法人ワーカーズ・コレクティブ青いそら
宗田　浩治

僅かな望みの持続化給付金対象から除外された人格なき社団

埼玉のワーカーズ・コレクティブの約 3 割が、ふさわしい法人格がないこともあり人格なき社団*として事業を行っています。この状況下で人格なき社団が給付金の対象から外されたことに対して、連合組織として、給付金対象範囲を拡大することを求める声を上げています。

感染症拡大の波を何とか乗り切る

2 月以降、新型コロナの怖さ、特に高齢者や持病のある方の重症化などの報道から、常連客の方々はもとよりメンバーにも厳重に感染予防が必要と、身の引き締まる思いでした。

折も折「ワーカーズ・コレクティブ全国会議 in 愛知」で紬は役割を担い 3 名で参加することとしていました。危険を承知、家族の反対を尻目に新幹線で名古屋に行き、全国会議から戻った自分たちも感染の可能性があるため、来客の安全を考慮して 2 月末から休業しました。利用していた施設が使用できなくなったため毎回賑わっていた出張ミシンカフェは 6 月まで休眠、毎回 10～15 名参加がある人気の歌カフェも、感染度が高いため早々に中止としました。

給付金対象外とされ、事業者として憤る

休業は互いの安全のためとは言え即減収で、8 万円の家賃が重く、持続化給付金や休業補償制度が頼りでした。ところが、パソコンで給付申請をしようと法人番号を何度入力しても受付けられません。埼玉ワーカーズ連合会からの情報で「人格なき社団」は給付対象になっていないことを知らされました。私たちは「みなし法人」ともいう法人格なしで事業を行う組織ですが、それは、働き方に合う法人格が現状の日本ではまだ無く、しかし社会的責任ある事業体として納めるべき税はきちんと納める地域貢献型団体としての自負を表現するものでした。

この理不尽に埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会をはじめ WNJ が動き、国会議員から中小企業庁に働きかけがなされていることは連合している成果であり、心強く今後に期待しています。

ワーカーズ・コレクティブ紬　清水悦子

＊**人格なき社団**：多数の者が一定の目的を達成するために結合した団体のうち法人格を有しないもので、単なる個人の集合体でなく、団体としての組織を有し統一された意思の下にその構成員の個性を超越して活動を行うものをいう。収益事業に課税される。